

Monthly
Company
Magazine

ONDO

月刊 おんど

August 8月
No.551 2023

株式会社
ウチヤ・サーモスタット
UCHIYA THERMOSTAT CO.,LTD.

月刊おんど編集部（総務部）

〒341-0037
埼玉県三郷市高州2-176-1

TEL: 048-955-4181

FAX: 048-956-1310

E-mail: info@uchiya.co.jp

自動車の車検に関する基礎知識を学んでおきましょう！

令和5年6月24日

社長 清水 澄人

普段、自動車を運転する人達は案外にも車検に関する知識は乏しく、大方のドライバーはディーラーや整備工場にお任せで車は管理されていて、大過なく車は維持されていますが、中古車を買ったり、整備工場を変更したりした場合によく知らなかったことで思わぬミスやトラブルが発生する可能性があります。勉強の積もりで以下の項目を再認識をしましょう。




1. 車検切れの厳しい罰則

車検が切れたままの状態を知っていても知らなくても発覚すれば違反です。道路運送車両法違反の犯罪として刑事処罰の対象になります。6か月以下の懲役または30万円以下の罰金（道路運送車両法第58条1項、108条より）が科せられます。自賠責保険も切れていれば自動車損害賠償保障法違反となり、1年以下の懲役または50万円以下の罰金（自動車損害賠償保障法

第5条、86条の3より)が科せられます。車検切れでの違反点数は6点、自賠責保険切れでの違反点数も6点、両方合わせると12点ですので免許停止は免れません。事故が無くてもこれだけの罰則が待っています。

万一事故を起こした場合はさらに厳しくなります。車検切れ＝自動車保険(任意保険)無しです。自動車保険は車検があって有効な保険です。自賠責保険も切れていれば相手のケガへの補償は一切保険会社から出ません。一生罪を償うことになります。

❖ 公用車の車検切れを見落とす原因・背景



- ◆ 車検時期をチェックしていなかった
- ◆ 「車検は別の部署の担当」と誤解
- ◆ 複数の職員が乗って、異動も頻繁→管理する意識が薄れがち

○ 新車の場合

新車の自家用車の場合、新車として登録してから最初の車検は3年経過時、以降は車齡にかかわらず2年ごとに車検を受けるように定められています。これは軽自動車や250cc超の小型二輪自動車でも同じです。乗用車でもレンタカーとして用いられる場合は、最初の車検は初回の車検が2年目、それ以降は1年ごとに受ける必要があります。1995年に制度が改正される前は、登録から10年を超えた自家用車は毎年車検を受けることになっていましたが、現在は2年毎と変更になっています。

○ 中古車の場合

中古車市場では「車検あり」と「車検なし」の2パターンの中古車が売られています。「車検あり」は、車検の有効期限がまだ残っている車のことです。購入後に車検を受ける必要がなく、名義変更などの手続きを済ませればすぐに公道を走ることが可能です。ただし、車検が1~2ヶ月で切れる車も「車検あり」として売られているため、そのような場合は購入後間もなく車検を通さねばなりません。「車検なし」の場合は、車検の有効期限が切れています。そのままでは公道を走行できず、車検を通す必要があります。

○ 車検満了日の確認手段

車検の満了日を確認するには、車検証(自動車検査証)か車検シール(検査標章)のいずれか



(表)



(裏)

られている事が多く、車検を通すごとに新しい車検シールに張り替えます。車検シールは表側（車外側）と裏側（車内側）で表示が異なり、表側には車検満了年月が、裏側には車検満了月日が記されています。

を確認しましょう。車検証の左下に「有効期間が満了する日」と記載のある項目があり、そこを見れば車検満了日を確認することが可能です。なお、車検証は車を運転する際は常時携帯することが義務付けられており、グローブボックス（小物入れ）に入れている方が多いようです。車検シールは車のフロントガラスの中央上部分に貼



○ 必要書類はしっかりと保管されているか



お店に車検を依頼する場合に必要な書類は、車検証、自賠責保険証明書、自動車税納税証明書もしくは軽自動車税納税証明書の3点です。車検証を紛失した場合、普通乗用車の場合は管轄の運輸支局、軽自動車の場合は管轄の軽自動車検査協会の窓口に行って再発行の申請をします。自賠責保険証明書は有効期限内のものを持参し、紛失した場合は保険会社

に連絡して再発行してください。自動車税・軽自動車税納税証明書は、毎年5月頃に振込用紙が送られてきます。コンビニなどで納税すると振込用紙の右側の半券が納税証明書になるので、車検までなくさないように保管しましょう。紛失した場合は自動車税事務所で再発行の手続きをしてください。

○ 定期的なメンテナンスを怠っていないか

走行距離が長い、日常的に車を使用する場合、2年に1度の車検に伴う整備だけでは少々心もとないものであり、法定点検・定期点検を受けることが推奨されています。法定点検は受けなくても罰則はありませんが、12ヶ月ごとに受けることが義務付けられています。特にブレーキパッドやタイヤなどの消耗品は安全な走行にかかわるパーツであることから、こまめなメンテナンスを実施する必要があります。また、副次的な効果として、車検までにしっかりメンテナンスをしておけば、車検に通りやすくなったり、車検費用を抑えられたりする可能性があります。

○ 車検費用が高くなるのは何年目から？

新車登録から13年目で車検費用の一部である自動車重量税が上がります。自動車重量税については、エコカーであればエコカー減免が受けられ、13年目以降になっても上がりません

が、それ以外の車は13年目以降と18年目以降が重課の対象です。例えば、車両重量が1,500kg以下の車では13年未満では24,600円ですが、13年経過時は34,200円、18年経過時は37,800円となります。(2021年10月時点) また、自動車税も新車登録から13年経過すると重課の対象です。その他、パーツが経年劣化により交換が必要となると交換費用がかかり、車検費用が上がる要因の1つとなります。

2. 車検業者

○ ディーラー

ディーラーは、自動車メーカーが定めた車種ごとの整備方法に通じており、またノウハウも蓄積しているため高い品質の整備が期待できます。一方、予備整備をしっかりと行うこと、パーツは自動車メーカー純正品を多く使用することから他の業態よりもコストは高い傾向になります。

○ 整備工場

整備工場は街中にある民間の自動車整備工場のことで、その多くは「○○整備工場」や「○○モータース」といった看板を掲げています。キャリアの豊富な人が整備にあたることで多く、しっかりとした点検整備を受けられ、コストは相場より低めに設定されている場合もあります。なお、整備工場には指定工場と認証工場の2種類があり、車検を依頼する時はその違いを理解しておくことが大切です。指定工場は検査設備を持っており、工場内で整備から車検までスピーディーに行うことができるのが特徴です。一方、認証工場は工場では整備はできないものの、車検は車検場に持ち込んで実施しなければならないため、ある程度の時間を要します。

○ カー用品店

カー用品店は車のアクセサリパーツや洗車用具、オイル類、タイヤなど様々な車用品を取り扱っている量販店のことです。なかには全国に店舗を構えているカー用品店もあり、自宅近くの店舗に気軽に立ち寄れるのが特徴です。最近では車検に力を入れるカー用品店も増えており、指定工場の認証を受けているお店ならスピーディーに車検が完了します。また、点検整備の際に交換するパーツを店頭で売っているものの中からご自身の好みに合わせて選べるのも大きな魅力です。さらに、コストと品質のバランスにも優れているため、車検費用をなるべく抑えたい方におすすめの依頼先です。















○ 車検専門店

車検専門店は、その名の通り車検整備に特化した車検専門店です。一番の特徴は、車検に要する時間が短いことで、指定工場の認証を受けているため、整備が終わったらその場で車検に通すことが可能です。また、多くはフランチャイズ化されており、全国どの店舗でも均一の品質を保った車検が受けられます。スピーディーな車検を求める方に向いますが、車検を通すことを主目的に整備を行うため、快適な走行を目指す方にとってはやや物足りなさを感じるケースもあります。

○ ガソリンスタンド

ガソリンスタンドと言うと給油か洗車をする場所というイメージがありますが、最近では国家資格の自動車整備士を置いて車検を取り扱う店も増えてきました。最大のメリットは、行きつけのガソリンスタンドで車検を行える気軽さです。料金も比較的lowめに設定されており、ガソリン代の割引チケットをもらえるケースもあるなどお得感のある車検も魅力の1つです。ただし、整備工場が併設されていない場合は外部の工場に委託するため、実際に車検整備を行う人と直接会う機会がなく、整備技術が分からない状態で車検を通すことになる可能性があります。

車検業者ごと質や期間・費用の違い

	 ディーラー	 カー用品店	 中古車販売店	 ガソリンスタンド	 整備工場	 車検専門店	 ユーザー車検 (持込車検)
特徴	検査項目が多く修理に新品の純正パーツを使用する	中古パーツやアウトレット品を活用する場合も	値引き対応などほかにはないサービスがあることも	給油の割引など特典がつくこともある	地域密着型の工場は対応が柔軟	店舗によっては持ち込み当日に愛車を持ち帰ることも可能	必要な工具と知識があれば法定費用のみで車検を通せる
整備・修理費用	 整備・修理費が高い	 整備・修理費が安い	 整備・修理費が安い	 店舗によってばらつきあり	 ばらつきあり	 料金が一律	 整備・修理費がかからない
日数	1日～2日程度	指定工場の店舗だと1日程度	1日程度	日数がかかる	指定工場の店舗だと1日程度	1日程度	点検・整備・手続きに手間と時間がかかる

以上

ヨーロッパ出張報告

2023年7月10日

研究開発部長 飯塚和幸

2023年6月25日～7月5日に清水社長とヨーロッパへ出張しました。ウチヤアイルランド (UIL) の Mr. Seamus Seymour, GM と合流し、イギリス、イタリア、ドイツのお客様訪問を行い、新製品のプロモーションと欧州市場、経済情勢の調査を行いました。

ドイツの経由地であったミュンヘン空港に降り立つと、ターミナル2の外壁にドイツ自動車大手 Audi 社の巨大広告を目にしました。Audi 社の本社がバイエルン州インゴルシュタットにあり、同じバイエルン州にあるミュンヘン空港とも協力して、電気自動車 (EV) の普及に力を入れています。Audi 社は、2026年以降に販売する新車はすべて EV にしエンジン車の選択を限定し、2033年には一部を除き、エンジンの生産も中止する計画を発表しています。



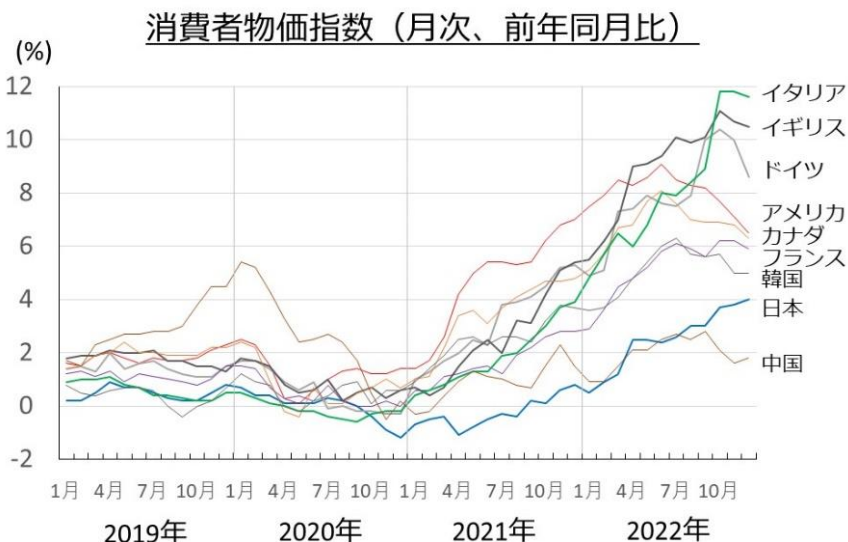
他方、欧州連合 (EU) は今年3月25日、2035年にガソリンなどで走るエンジン車の新車販売をすべて禁止するとしてきた方針を変更し、環境に良い合成燃料を使うエンジン車は認めると表明しました。エンジンの全面禁止により EV シフトを世界に先駆けて進めてきた EU の政策が大きく転換しました。欧州自動車部品工業会による調査結果では、EV シフトによって新規雇用が生まれるが、EU 域内の自動車部品産業全体としては2040年までの間に27万5000人の雇用が失われるという見通しを立てています。

イタリアにある我々のお客様から、新規プロジェクトに使用するサーモスタットの問い合わせがありました。訪問して詳細を聞くと、新規プロジェクトとはディーゼルエンジン車の燃料ラインに使用するヒータを開発するプロジェクトであり、そのヒータの制御にサーモスタットを使用したい、ということでした。今から、ディーゼルエンジン車のための開発を行うという話です。この事実からも、表面上は国や企業のイメージ戦略のために EV シフトを打ち出していますが、水面下ではまだまだエンジン車が継続する動きであることが分かります。我々は米国で EV を乗りましたが、中長距離走行において充電時間と走行可能距

離が実用的でないことを実感しています。この様な状況ではありますが、世界的な EV シフトの流れは加速していきますので、これに対応するための準備（直流高電圧遮断サーマルプロテクタの開発）をウチヤ社は着実に進めています。

環境問題解決よりも悪化している欧州経済の回復が急務であることが現実です。新型コロナウイルス感染拡大の影響による行動制限が緩和され、経済活動が再開されましたが、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻を背景に、エネルギーをはじめ様々な品目の価格が上昇しました。

消費者物価指数の変動を見ますと、欧州各国の上昇が著しいことが分かります。2022 年後半にピークアウトしていますが、2023 年は高止まりの懸念があります。欧州経済は「不確実性が高い」とされ、エネルギーのロシア以外の代替供給先を探していますが、ガス価格上昇や供給が途絶えれば



【出典】総務省統計局「消費者物価指数」（月報参考表）
労働政策研究・研修機構「新型コロナが雇用・就業・失業に与える影響」

2023 年～2024 年の欧州と世界の成長率を著しく低下させると報じられています。

この様な情勢の欧州ですが、今回訪問した我々のお客様は非常に好調な企業が多く、あるドイツの企業では受注量が生産キャパシティを大きく上回っていると聞きました。この様な情勢だからこそ、新たに創出されるマーケットが確実にあり、そこにウチヤ社のサーモが必要とされていることが分かりました。今回のお客様訪問では、新しい仕様の要求が多くあり、ウチヤ社は新しい方法を提供していきます。

ご要望に迅速に応えるためには、安全規格の速やかな取得も必要となります。ドイツにある VDE 本部の訪問では、新製品 JP22（最高動作温度 170℃）と UB7T（UB7 のカスタマイズ品）の VDE（EN）認証申請の打合せをしました。評価サンプルを持参して対面で説明

することが規格申請では非常に重要です。JP22 は高接点圧構造の HYBRID THERMOSTAT（商標登録）のシリーズであり、今年、市場投入する代表的な新製品です。その他、TH930(M)シングルオペレーションデバイス、低温サーモなど次々と新製品供給の計画を立てています。



ドイツのミュンヘンに滞在していた日曜日に、元ウチヤヨーロッパの片山さん（ドイツ在住）とお会いしました。ミュンヘンと同じバイエルン州にあるランツフトという都市で **Landshuter Hochzeit**（ランツフトの結婚式）という祭典が開催され、片山さん家族が我々を案内してくれました。この祭典の起源は15世紀までさかのぼり、1475年、当時の君主であったゲオルク公がポーランドからカジミェシュ4世の王女ヤドヴィガ・ヤゲロンカを妃として迎えた際に、ランツフトで結婚式が盛大に行われました、この結婚式の様子を再現した祭典です。本来は4年毎の開催ですが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で2021年の開催予定は中止になり、今年6年振りということで、さらに盛大な開催となっています。この祭典は、約1か月間開催され、毎週日曜日に行われる結婚式のパレードや中世騎士の騎馬試合、コンサート、演劇などで街中が盛り上がります。

指定席で観覧するためには料金が必要です。路上でのパレードはEUR45（約7,000円）、スタジアムでの騎馬試合はEUR49（約7,600円）となります。屋台などでの飲食代も含め、お金を使う仕組みが上手くできています。観覧者は盛大な祭典を楽しみ、主催者はお祭りご祝儀相場価格で儲かる、という考えられたビジネスモデルがしっかりとあり、欧州らしさを感じました。人々は皆活況で、力強い経済回復が期待できそうでした。ビジネスと中世の歴史を学ぶ貴重な体験をすることができました。

今後も、欧州をはじめ世界の実情に直接触れて理解し、新規市場を開拓して、ウチヤ社の既存製品、新製品を的確に供給していきたいと思えます。



片山さんファミリーとランツフトの祭典（Landshuter Hochzeit）を観覧

以上